

2022年度のまとめ

1 共立病院建て替えリニューアルと地域包括ケアの推進、介護と医療の一体化

- ①共立病院建て替えリニューアルは、組合員と職員が協同して新病院建設委員会を立ち上げ、建設運動をすすめました。
 - 組合員による共立病院駐車場案内ボランティアも患者様に喜ばれています。
 - 介護事業の展開も計画的にすすめました。
 - 2022年3月 福祉介護センターあぼし新築移転
 - 2022年5月 福祉用具レンタルあぼし開設
 - 2022年10月 福祉用具レンタル市川台を移転し「共立」へ名称変更
 - 2022年12月 共立病院建て替え 地鎮祭、着工
 - 2023年4月 白鷺・琴陵地域包括支援センター受託開設
- ②地域包括ケアを推進し、「介護と医療の一体化」をすすめました
 - 共立病院と介護部門の連携会議やあぼしエリアにおける連携会議等、しくみをつくり、「総合力と連携」強化をはかりました。
 - 2月の兵庫民医連学術運動交流集会には、法人から20演題を発表し、「多職種連携」「自立支援」を深めました。
 - 5月にオープンした県立はりま姫路総合医療センターをはじめ、他法人の医療機関・介護事業所との連携をすすめました。
- ③経営活動は、3つの柱（利用者増・コンプライアンス②・サービスの質の向上）を重視しました
 - 2022年度決算は、事業収益●●億円（予算比●●%、前年比●●%）、経常利益●●万円（経常利益率●●%、予算比●●%）です。
 - 姫路市の実地指導を各事業所（福祉介護センターあぼし・福祉介護センターなだ・居宅介護の窓口・増位広嶺地域包括支援センター）が受け、サービスの質の充実につなげました。
 - 中長期計画は、共立病院の建て替えリニューアル計画を見据えて、20年間の収支計画を作成しました。
 - ニュースひめじが医療福祉生協連の機関紙コンクールで最優秀賞を受賞しました。



福祉用具レンタル共立

2 “地域包括ケアを担う人づくり”の推進

- ①人財確保・育成、管理者・リーダーの育成をすすめました
 - 計画的に新入職員基礎研修を開催するとともに、兵庫民医連の介護管理者研修会に16名が参加しました。
 - 法人学習会—「10の基本ケア学習会」（4月：99名参加）、「完全側臥位法学習会」（10月：126名参加）を開催

- しました。
 - 職責者未配置の介護事業所に計画的に職責者の配置をすすめました。
 - 医師確保は、引き続き最重点課題です。
- ②教育体系の見直しをすすめました
 - 介護コンサル会社と契約をおこない、プロジェクトを立ち上げ、新入職員基礎研修をOJT（職場内研修）に活かせる内容に改善するとともに、介護事業所の事業種ごとの新入職員教育チェックリストを作成しました。2023年4月から本格的運用を開始します。
- ③組合員と職員がともに学び、協同をひろげました
 - 第23回介護医療フォーラムを開催（11月）し、「認知症になっても自宅で暮らし続けるために」をテーマに293名の組合員・職員がともに学びました。
 - 理事研修会を開催（7月）し、医療福祉生協の2030年ビジョンを組合員理事・職員理事がともに学び、交流を深めました。
 - 通信教育は組合員25名、職員49名、計74名が受講しました。

3 共立病院建て替えリニューアル成功に向けた“1億円増資大運動”

- ①ゆるやかなつながりづくりと社会参加を大切にしたい “くらしの安心ネットワーク”をひろげました
 - コロナ禍の中、創意工夫で「つながりを絶やさない」活動をひろげました。生協マルシェ③は、あぼしエリアにも拡大するとともに、フードドライブ④や「スマホの使い方」班会も注目されました。「介護・医療の困りごと相談窓口」ステッカーを組合員にひろげました。
 - フレイル・オーラルフレイル予防⑤、ひょうごまるごと健康チャレンジ、禁煙ポスターコンクールにとりくみました。
 - 秋の生協強化月間は共立病院の建て替えリニューアルの成功を訴えのメインに推進しました。
 - 仲間ふやしは●●名（純増●●名）、出資金ふやしは●●万円（純増●●万円）の到達です。事業所の平均組合員利用率は49%です。生協法上、50%以上の実現が求められます。
- ②くらし・平和を守る活動をすすめました
 - 「憲法改悪を許さない全国署名」「介護保険制度の改善を求める請願署名」等、署名活動にとりくみました。
 - ウクライナ支援募金、平和行進、平和ツアーにとりくみました。
 - 西播社会保障推進協議会の自治体キャラバンに参加し、5市6町を訪問し、懇談しました。



認知症カフェ「オレンジカフェ花北」

姫路医療生活協同組合

ひめじ

2023年度 総代会方針案

ダイジェスト版

〒670-0832 姫路市双葉町10番地 ☎079-285-3398

2023年度スローガン

組合員と職員の協同の力で、共立病院の建て替えリニューアルを成功させよう！

はじめに

2022年10月30日、荻野俊夫代表理事・理事長が急逝され、11月12日付で西村哲範 共立病院院長が代表理事・理事長に就任しました。荻野前理事長は、1975年の共立診療所開設以来、約半世紀近くの長きにわたり、姫路医療生協の事業と活動の発展に尽力されてきました。法人理念「その人らしく、気持ちよく生きる」の提唱や「事業の目的は利用者を増やし、喜んでいただけるサービスを提供すること」「絶対にお断りしない」「困っている人に必ず手を差し伸べる」等の基本方針は荻野前理事長が強調されたものです。これらの基本的精神を引き継ぎ、さらに発展させていきます。

今、新型コロナウイルス感染症をはじめ、少子高齢化、貧困・格差の拡大、円安・物価高騰、ロシアによるウクライナ侵略、防衛費のGDP比2%の増



2023年12月 オープン予定

新共立病院イメージ

額、気候危機等、くらし・平和・環境に関する様々な課題が山積しています。2023年度も事業と活動を通じて、地域包括ケア①を推進するとともに、SDGs（持続可能な開発目標）の視点で様々な社会問題にアプローチし、「誰一人取り残されない社会」の実現をめざして行動します。

姫路医療生協は2024年8月に創立50周年を迎えます。周年行事や記念誌発行等の準備をすすめます。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



2023年度 通常総代会の公告

《日時》
2023年6月22日（木）
午後2時～4時30分

《会場》
イーグレひめじ
あいめっせホール
（3階）

2023年度のすすめかた

1 介護と医療の連携強化・一体的サービス提供で、利用者を在宅で支えます

①多職種連携・自立支援をすすめ、在宅の限界点を高めます

- 共立病院の建て替え運動は、2023年12月のオープン（地域包括ケア病床48床、投資額：税込約16億円）をめざし、新病院建設委員会を軸に組合員参加で推進します。共立病院デイケアは、別棟で2024年8月オープン予定です。
- 医療事業は「かかりつけ医」^⑥機能と訪問診療を重視し、患者増をすすめます。医師対策を強化し、常勤医師を確保します。
- 介護事業は、2023年4月に白鷺・琴陵地域包括支援センターを受託開設し、軌道に乗せます。赤字事業所は統廃合含めた事業の再構築・経営改善をはかります。食支援プロジェクトで、在宅で“最期まで食べる”にこだわった支援をすすめます。
- 2023年度の事業収益は●●億円（前年比●●%）、経常利益は●●万円（経常利益率●●%）を実現します。
- 行政や他団体との“顔の見える関係づくり”をさらに強めます。2024年4月の診療報酬・介護報酬・障がい福祉のトリプル改定、第9期介護保険事業計画対応を着実にすすめます。

②組織再構築で健全経営を実現します

- 2023年4月から介護事業の統括責任者の専任化、介護事業部の体制強化と役割の見直し、総務部のもとに人事課の設置（人財確保・育成・評価制度）を本格的に運用します。人財確保につながる給与体系の見直しを具体化します。
- 営業活動と広報活動を強化します。ICT（情報通信技術）の利活用水準をさらに引き上げます。引き続きコンプライアンスを重視します。



第23回介護・医療フォーラム パネルディスカッション

2 地域組合員と職員組合員がともに学び、育ち合う人づくりをすすめます

①「生協10の基本ケア」を導入し、実践につなげます

- 「生協10の基本ケア」学習会や実践発表会を開催します。個人の尊厳、住み慣れた地域で暮らし続けられる自立支援を大切にします。
- ケアのあり方を組合員・職員が共有し、医療事業+介護事業+組合員活動を一体的にすすめます。



フレイル予防講座

②教育体系を見直し、人財確保・育成を強化します

- 2023年4月からOJT（職場内研修）に活かせる内容に改定した新入職員基礎研修、介護事業所の新入職員教育チェックリストの本格的運用を開始します。
- キャリアパスの構築を具体化し、管理者・リーダー育成を推進します。
- 職場づくりは、職員の力を引き出すマネジメント、多様な価値観を尊重する「心理的安全性」^⑦を重視します。

③組合員と職員がともに学び、協同をひろげます

- 第24回介護・医療フォーラムを企画します。
- イチ押し班会メニューを充実させ、活用をひろげます。
- 通信教育やe-ラーニング^⑧の活用をはかります。

3 誰もが健康で居心地よくくらせるまちづくりをすすめます

①ゆるやかなつながりと社会参加を大切にし、“くらしの安心ネットワーク”をひろげます

- 健康づくり、フレイル・オーラルフレイル予防、サークル活動、生協マルシェ、フードドライブを地域にひろげます。新たに「ポッチャ」^⑨にとりくみます。
- 担い手づくり・居場所づくりを重視します。地域で生活を支える「くらしの助け合いの会はなちゃん」の支援会員や事業所ボランティアを増やします。
- 75歳以上組合員のつながりを強め、フレイル予防、見守り活動、相談活動をひろげます。
- “認知症になっても自宅で安心して暮らせるまちづくり”をすすめます。
- 事業利用委員会は、「キラリハート」^⑩のとりくみを重視するとともに、“ともに創る”イベントを企画します。

②共立病院建て替えリニューアル成功を目指した“1億円増資大運動”にとりくみます

- 仲間ふやし1,000名（純増500名）、出資金ふやし1億円（純増5,000万円）、積み立て増資1,200件/月をめざします。早期に組合員数2万人を回復します。
- 全事業所が組合員利用率50%以上を実現します。各事業所は日常的な組合員ふやしにとりくみ、組合員利用率アップをはかります。

③持続可能な社会・平和な社会をめざします

- 憲法9条を守り、平和な社会をめざします。
- 社会保障の拡充、環境を守るとりくみを推進します。
- 原発ゼロの実現、再生可能エネルギーへの転換をめざします。
- 署名活動や学習会・平和ツアー等のイベント、平和行進、自治体訪問にとりくみます。



あぼしマルシェ

《語句の解説》

- ①地域包括ケア
医療、介護、生活支援・介護予防、住まいが地域の中で包括的に確保されるという考え方。誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるまちづくり
- ②コンプライアンス
法令遵守、及び社会規範を守ること
- ③生協マルシェ
マルシェはフランス語で「市場」を意味します。“通い”と“つながり”の場としての楽しいイベント
- ④フードドライブ
食品ロスをなくすために、余った食品を必要な人に届けるとりくみ
- ⑤オーラルフレイル予防
口腔機能の低下を予防する取り組み。健康寿命の延伸に大きく寄与します。
- ⑥かかりつけ医
医療・健康のことなら何でも相談できる身近な医師
- ⑦心理的安全性
誰もが安心して発言や行動ができる組織の環境を指します。
- ⑧e-ラーニング
インターネット・動画を活用した学習
- ⑨ポッチャ
老若男女、障がいのあるなしにかかわらず、すべての人が一緒に、そして競い合えるスポーツ
- ⑩キラリハート
利用者様に喜ばれたイチ押し事例を各事業所がまとめ、組合員・職員の確信にし、ひろげるとりくみ